

松江の宝・旧制松江高校

奥谷官舎への想い
カルシュの
足跡と残した偉業

東京医科歯科大学 若松秀俊

良く知られている偉人

Patrick Lafcadio Hearn (英) ハーン(1850-1904):

松江尋常中学校(現松江北高校), 松江師範学校(現島根大学),
第五高等学校(現熊本大学)の英語教師

William Smith Clark(米)クラーク博士(1826-1886):

札幌農学校初代教頭 **Boys Be Ambitious** (青年よ, 大志をいだけ)

Wenceslau José de Sousa de Moraes(葡)モラエス(1854-1929):

海軍士官, 外交官, 文筆家リスボン生まれ、徳島で没。

Heinrich Edmund Naumann (独)ナウマン博士(1854~1927) :

地質学者、ナウマンゾウ野尻湖の湖底発掘

Edward Sylvester Morse(米)モース(1838-1925) :

横浜-東京間車の窓から古代貝塚(大森)発見,
ダーウィンの進化論を日本に紹介

フリッツ・カルシュ博士

1893-1971

大正14年から昭和14年まで

松江高校ドイツ語教官

日本の教育の

礎となったドイツ人



忘記得如偉人

[illegible]

日本語で書かれたカルシュ氏の職務記録（島根大学所蔵）

なぜ松江の宝なのか？

旧制松江高校の誇るべき哲学者

カルシュ博士の主な業績

シュタイナーの紹介

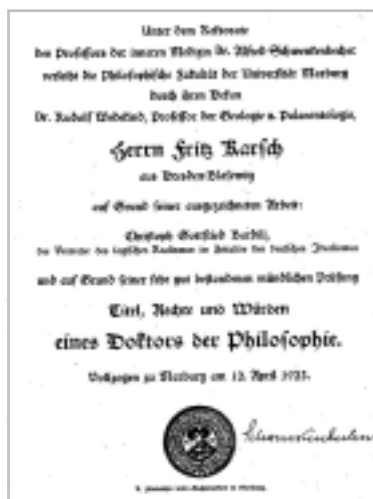
哲学史の叙述

日本文化の紹介

人材(著名人)の育成

80年前の出雲地方の記録

(写真集・絵画・調度品)



哲学博士学位記 1923年

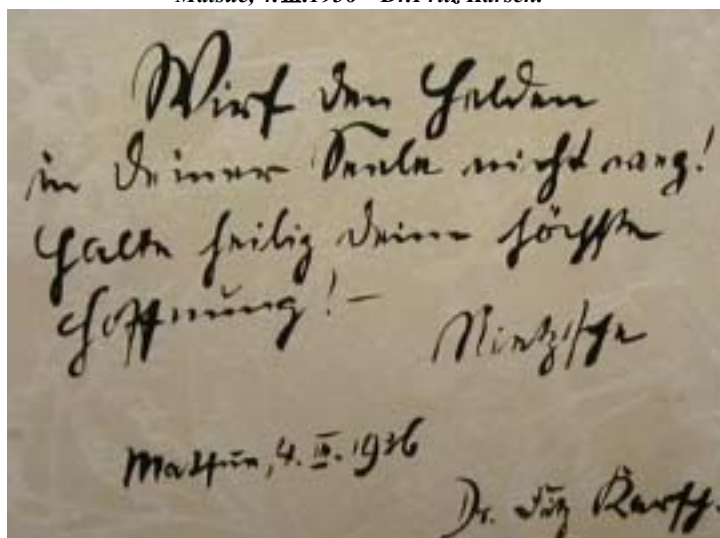


フリッツカルシュの著書および共著

Wirf den Helden in deiner Seele nicht weg!
Halt heilig deine höchste Hoffnung!-- Nietzsche
Matsue, 4. III. 1936 Dr. Fritz Karsch.

《気高き大望》を汝の胸に抱き続けよ

若松秀俊 訳



汝の心から《英雄の気》を失うことなかれ

生徒に贈ったカルシュ博士自筆・毛筆によるニーチェの言葉
松江在住の前田俊明氏所蔵

哲学者として

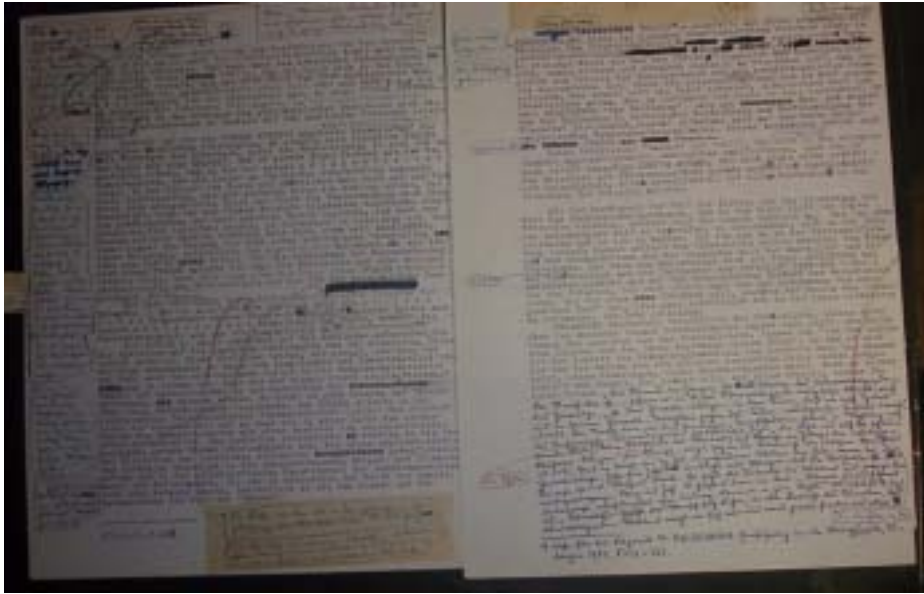
ニコライ・ハルトマン門下

シュタイナー哲学（人智学：アントロポゾフィー）
芸術性と社会性，自己修練と相互作用

日本への紹介（1925年）

1919年ドイツ・シュトゥットガルト市で開始した教育
ルドルフ・シュタイナー（1861－1925）
在学中：ゲーテアヌムで出会う

子安美知子 早大名誉教授が
1971年ドイツ留学後、著書『ミュンヘンの小学生』
を通じてシュタイナーを紹介したと言われてます。



カルシュの遺稿の一部



メヒテルトの自宅に保存されている
カルシュ博士の遺稿 約15,000頁

日本文化の紹介



カッセル盲人施設でのカルシュ講演の録音の一部
(1969年4月) メヒテルトより入手

カルシュの生涯

誕生, 学業期, 結婚

松江時代

外交官時代

戦後

生徒との交流

カルシュの両親



母：ルイーゼ



フリッツ
16歳



父：ヘルマン



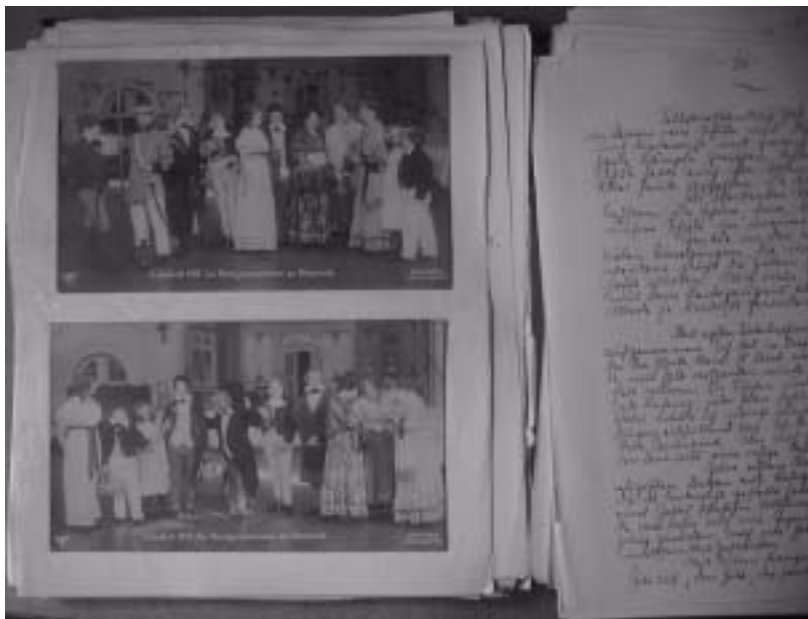
エルベ河沿岸ブラゼヴィッツの生家
正面の上部にはHK(父Hermann
Karsch)の頭文字が見られる



ブラウエス ブンダーと
呼ばれるロシュビッツ橋

[illegible]

小学一年生の時の成績表



フリッツ青春時代の日記

恋愛時代：大学と居酒屋



マールブルク大学文学部二階講義室(上), ディ・ゾンネ (下)



エンメラに贈ったシュタイナーの八つの人生訓 (1921年)

偶然



ホテル・アム・フリーデン・プラッツ
シュトゥットガルト

カルシュとの出会いまで

ドイツ語・ドイツ留学

Hotel am Friedensplatz

Hotel am Friedensplatz, 70372 Stuttgart, Germany

1. Etage

Room	Category	Price	Category	Price
Single	Standard	100.00	Single	100.00
Double	Standard	150.00	Double	150.00
Triple	Standard	200.00	Triple	200.00
Quadruple	Standard	250.00	Quadruple	250.00

The following information is provided for your reference:

Room	Category	Price	Category	Price
Single	Standard	100.00	Single	100.00
Double	Standard	150.00	Double	150.00
Triple	Standard	200.00	Triple	200.00
Quadruple	Standard	250.00	Quadruple	250.00

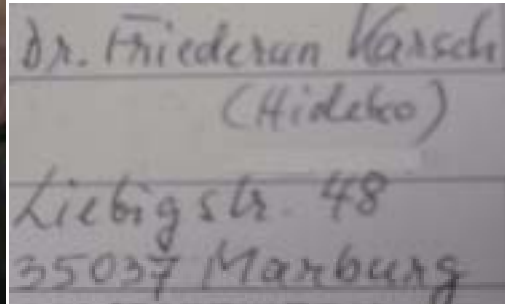
ホテル宿泊の際の領収書
普段なら捨てるものをなぜか捨てずにとってあった。



左からフランク教授・筆者・ガルコフスキー教授
ヨーロッパシステム制御国際会議
議長フランク教授の縁



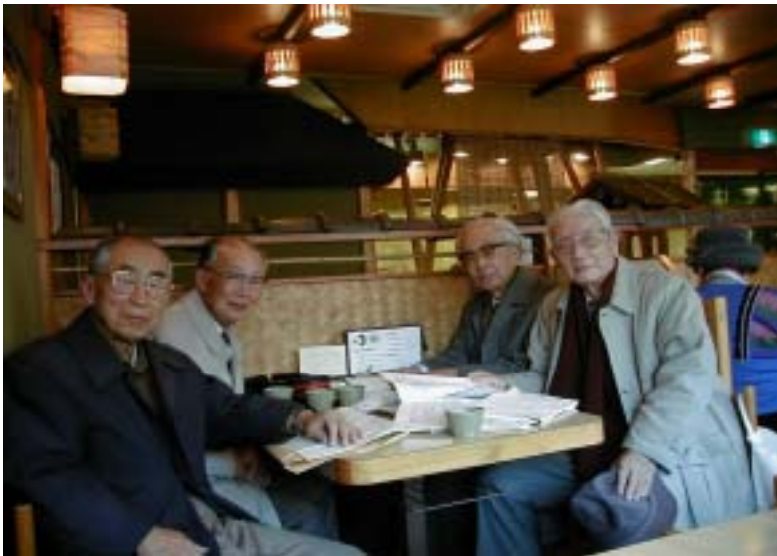
出会い



フリーデルンの住所を書付けた紙片
この一枚からすべてが始まった

1999年9月5日シュトゥットガルトの
ホテルで撮影。フリーデルンと若松

旧生徒との出会い



2001年2月9日 芦屋にて 左より奥野 松本 宮田 白石

二木会との出会い



二木会にて細田・岡崎とともに 2001年5月10日

フリッツ・カルシュ 日本での足跡

松 江 1925-1939

横 浜 1940-1944

世田谷 1944-1945

軽井沢 1945-1947

教育者として

旧制松江高等学校教官

奥谷町官舎

1925-1939

カルシュ博士と生徒のエピソード

《軽 石》

《官舎の火事騒ぎ》

《カルシュ先生と一緒に》

《学園祭の模擬店》

《マルクスの逸話》

《雨の夜のできごと》

《広島にて》

《ニーチェの解説書》

《先生と生徒の情熱》

《来 客》

若松秀俊「湖畔の夕映え」「四ツ手網の記憶」より



松江高校 正門玄関 昭和七年当時
九期生卒業記念アルバムより

著名な生徒

政界では衆議院議員で、自治相を務めた**赤澤正道**（昭和二年卒業の四期文乙）、元島根県知事**伊達慎一郎**（五期文乙）、元衆議院議員の**檜橋 勇**（六期文乙）、衆議院議員・国務大臣十回・衆議院議長を歴任した**福永健司**（七期文甲）、元衆議院議員の**高田富之**（九期文乙）、衆議院議員で自民党総務会長・行政管理・防衛庁長官・運輸大臣を歴任した**細田吉蔵**（九期文甲）や元衆議院議員・労働大臣の**山手満男**（十一期文乙）があげられる。

外交官としては元イラン・インド・中華民国・ブラジル大使歴任の**宇山厚**（九期理甲）、海外移住事業団理事・ウルグアイ大使歴任の**大城斉敏**（十期文甲）がいる。

法曹界では大阪弁護士会会長・日弁連会長を務めた**和島岩吉**（五期文乙）、元広島高裁長官の**松本冬樹**（八期文甲）と同じく元広島高裁長官**矢崎憲正**（十期文乙）、元福岡高裁長官**綿引紳郎**（十五期文乙）が挙げられる。

学界では前述の元長崎医科大放射線医学教授**永井 隆**（五期理乙）、元島根大教授・元琉球大教授の**酒井勝郎**（五期理乙）、元滋賀大文学教授で雑俳史研究家の**宮田正信**（九期文乙）、元北海道大印度哲学教授、僧侶で鈴木大拙の後継者の**古田紹欽**（十期文乙）、元大阪大教授・微生物病研究所長で 紫綬褒章を受章した麻疹ウィルス分離、マラリア研究の**奥野良臣**（十四期理乙）らの活躍。

芸術界・出版界では元カリフォルニア州立フロントン大教授、また舞踏家でドイツ留学後の欧米の舞台で活躍した**邦正美**（八期文甲）、岸田国士の劇作同人、大映グランプリ『羅生門』のプロデューサー・放送作家を務めた異能の士である**辻 久一**（九期文



ドイツ帰国に際して、同僚よりの寄せ書き(1939年)

カルシュ博士の講義内容から

ハルトマンの指導下で学位取得し、さらにシュタイナーの影響を受けたカルシュは後に、『ヨーロッパ文明の没落』の著書で有名なシュペンクラーと同様に、根本精神の欠落している性急な歩みに対する批判だけでなく、人間性を肯定する可能性として《仮象》の世界を描き、さらに《仮象》の社会を実現し、そこで生きることを目指すことの重要性を当時の生徒達に語っている。

唯物主義に走り過ぎた病態にある文明に支えられているヨーロッパ諸国に文化の崩壊の時が来る。それも西暦二〇〇〇年頃といっている。この時期に全世界の人々の間に混乱が起り、大きな危機に直面するという。驚くべきことに、これが、当時の講義の中で高校生に語られている。ヨーロッパは物質文明の発達により、その精神が物質的成果のみの社会に閉じこめられていることと、そうした中で、社会も個人も自らを支える精神的根拠が希薄であって、不安定な状況に晒されていることをその理由に挙げている。

なお、『同質と異質』の《混在と調和》で特徴づけられる日本の文化の一面と、他の地域からの思想や文物を巧みに吸収してこれを融合する力を大きな特徴として指摘している。そして、一つのものが他を滅亡させることなく共存している日本の文化の在りようは世界中の識者の注目するところであると語っていたという。

まさに、今日の世の有様を年代を含めて的確に予測していた。このことは混乱の時代に生きる我々にとって実に驚くべき洞察力であり、これらの講義内容を五期理乙の酒井勝郎が記録にとどめている。また、日本を離れるに際して、カルシュが生徒に語ったことをドイツ語の文章で印刷物として自ら残しているのは確かな証拠として極めて興味深い。



カルシュ調査に関する激励を駐日ドイツ大使のケストナー博士より受ける。左は日独協会花井理事 2000年7月18日ドイツ大使公邸にて

カルシュの親類(1)

テオドール・アクセンフェルト

(フライブルク大学教授)

モラクセラ・ラクナータ菌を発見、
日本の眼科学に大きな影響を及した

エディット・ピヒト・アクセンフェルト

(フライブルク音楽大学教授)

1937年ショパンコンクールで優賞

ピアニスト・チェンバリスト

多くの日本人弟子



カルシュ博士

アクセンフェルト教授

エディット ピヒト-アクセンフェルト(1914-2001)

1937年 ショパンコンクール優賞

ピアニスト・チェンバリスト

元フライブルク国立音楽大学教授



<http://homepage1.nifty.com/classicalcd/cdreviews/2001-4/2001100101.htm>

http://www.camerata.co.jp/profile/Edith_Picht-Axenfeld.html より借用

メヒテルトの母エンメラの従妹 アクセンフェルト フライブルク大学眼科学教授の末娘

カルシュの親類(2)

長女メヒテルトの夫ヘルベルト

「ヒトラーの行動記録(16ミリ)」を戦後ミュンヘンで自ら押収・保存。ベルリンの博物館に歴史的重要な資料として厳重保管

ラツァルス・セイント・ゴア (祖先)

ライン川流域のセイント・ゴア市の200年前の富豪で市長
宗教上の功績から聖 (セイント) の称号を授与

メヒテルトの母方の祖先

ドイツ最古のエリザベート教会の創始者 (一部未確認)

Riverview Resident Herbert St. Goar Honored in St. Goar, Germany

By Sandra Young

When Mayor Walter Mallman of St. Goar, Germany, received a copy of Chattanooga Herbert St. Goar's recent autobiography, *Taking Stock Of My Life*, he immediately began to make arrangements for visiting St. Goar and his wife, Maria, to visit the town where St. Goar's ancestors lived a few hundred years ago. The longtime Riverview couple accepted the invitation, planning their trip to coincide with the town's traditional annual fireworks presentation, "The Rhine in Flames."

When Herbert and Maria arrived in Germany, they were surprised to learn that Herbert was being honored as a banquet, because his ancestors had been prominent merchants in this Rhine River city almost two centuries ago, and Herbert is a direct descendant of **Seamus Wolf St. Goar**, who was mayor of the town of St. Goar, from April 9, 1890, until April 9, 1909. At a festive dinner, the mayor presented his Chattanooga guest with a "Tree of Honor of St. Goar" and a detailed history of the St. Goar family they had researched and put together in his home.

While in the city, the St. Goars enjoyed the fireworks display, which they viewed from a large boat, along with officials of St. Goar and other nearby towns. During his visit, St. Goar visited the town where near his ancestors had adopted in the 17th century, when they moved from St. Goar in Frankfurt/Main. The town's hospitality was very heartwarming, according to the St. Goars.

Although his ancestors were from St. Goar, Herbert was born in Hamburg, and lived there until he emigrated to the United States in 1938. He returned to Germany during World War II with the United States Armed Forces, in which he served as Section Chief of Intelligence for the Military Government for Bavaria in Munich. St. Goar served as President and CEO of the Hilde Teying Stores, Inc. for 30 years, until his retirement in 1988. He resides in Chattanooga with his wife, Maria, son, **Edward**, daughter-in-law, **Rebecca**, and grandchildren, **Julia** and **Carl**, who live in Chattanooga, while daughter, **Elinor**, and her family live in Greensboro, North Carolina. Herbert St. Goar's book, *Taking Stock Of My Life*, was published in 2008.



Herbert & Maria St. Goar at Castle Rheinfels

ヘルベルト・メヒテルトのセイント・ゴア市訪問の報道



ヒトラーの側近バウアーの尋問時
に押収した16ミリカラー映画
(写真はセイント・ゴア)

画家・写真家として

水彩画・パステル画

家族らとともに約100枚

写真 松江・島根関連

全国各地・その他 約2000枚



中海の向こうに見える雄峰大山

フリッツ・カルシュは幼少の頃、まだ見たことのなかった大山の夢を何度も見たと語っていた。人の世の因縁の不思議を感じる言葉である。



友人の筆になる絵画



フリッツ自筆の絵画



フリッツ自筆の絵画



フリッツ自筆の絵画

出雲地方の歴史の記録

80年前の写真による証言



1931年5月大火 松江東本町付近



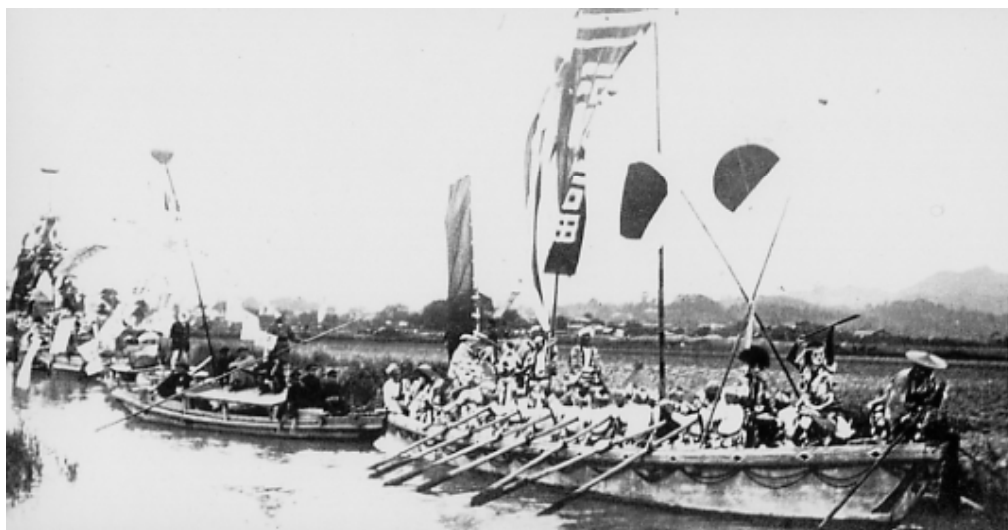
昭和2年ごろの中海



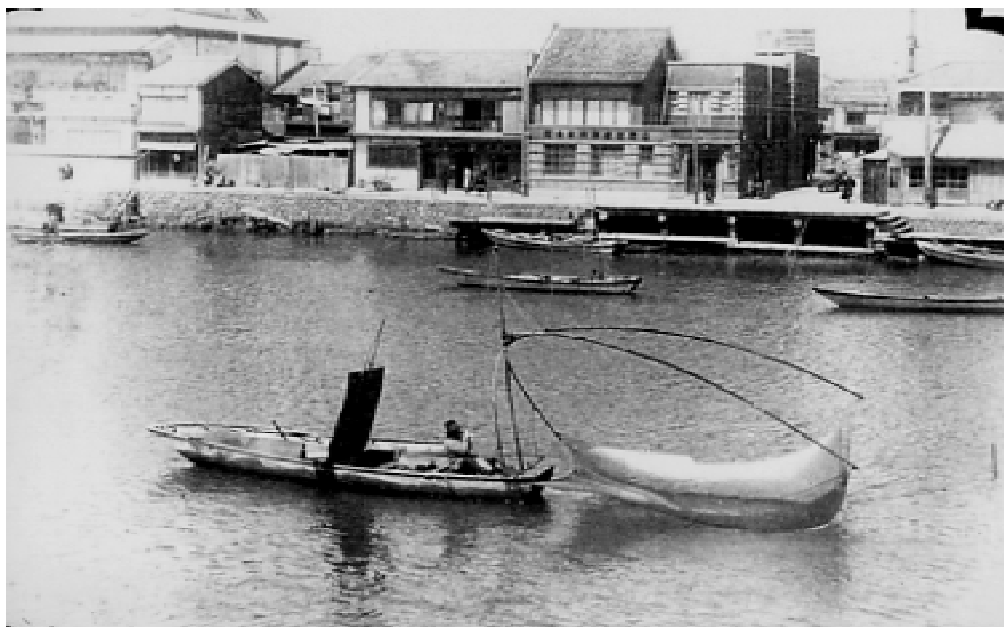
昭和2年ごろの袖師ヶ浦の地藏



昭和天皇の即位御大典記念の宮行列



ホーランエンヤ神幸祭 1929年



大橋川 四ツ手網による白魚漁



島根半島の様子 1926年ごろ



軽井沢駅付近 1926年



1926年 軽井沢の街並み





1930年アクセンフェルト教授とともに





ひな祭り





後列左から永田フミ子、高橋トシ子、メヒテルト、
前列左から高畠キミ子、小豆沢史(1937年頃)



春日神社 1926年頃

メヒテルトの思い出

奥谷火事に鑑みて

松江署が一層喚起する

火事は3月28日

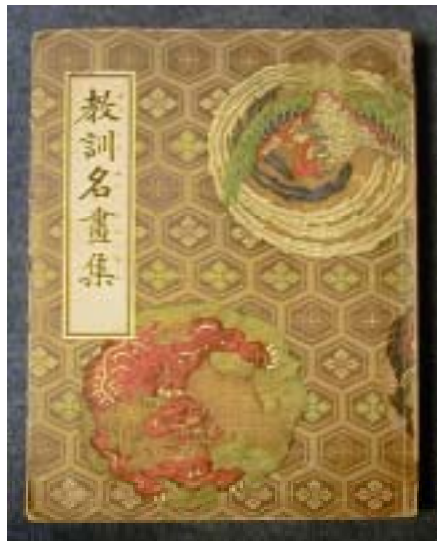
[illegible]

A black and white photograph showing a garden path leading towards a building with large windows. The path is bordered by various plants and flowers, including a large bush of white flowers in the foreground. The building has a modern design with large glass windows and a flat roof. The overall scene is a well-maintained garden area.



昭和9年頃官舎の傍で

家屋の見取り図と昭和9年頃の庭の様子



お気に入り人形

メヒテルトに父フリッツより与えられた教訓名画集と絵本の一部



父フリッツから贈られた家の模型

ドイツ大使館員時代

1941-1945

横浜 世田谷 軽井沢



横浜での住居



東京世田谷の住居



軽井沢の住居



メヒテルト・マリア・カルシュ



1968年10月博多にて



1970年10月 カルシュ夫妻



カルシュ夫妻と生後一週間で亡くなった長男
ゴットフリートの眠るマールブルクの墓地

[illegible]

カルシュに関する最初の報道

[illegible]



カルシ遺品展示 松江高校生の書簡 写真と絵画



チャタヌーガの自宅と居間で愛猫と戯れるメヒテルト（2007年）

Mechtild Maria Karsch (Mrs. Maria St. Goar)

1928年1月27日生まれ

父：Fritz Hermann Karsch

母：Emmela Axenfeld

妹：Friederun Karsch

カルシュの影響の拡がり

生徒によって多くのことが語り継がれる
松江の誇るべき偉人

- ①戦後活躍した多くの著名人を育む
- ②80年前の出雲地方の貴重な記録を残す

娘達に託す シュタイナー哲学の実践

- ③長女(Mechtild)：関連文献の独語-英語翻訳出版
アメリカでシュタイナー人智学研究の中心人物
- ④次女(Friederun)はドイツマールブルクの
シュタイナー学校（自由ヴァルドルフ学校）出身、
マールブルク大学で学位取得（政治学博士、地理学博士）
自由ヴァルドルフ学校でシュタイナー教育に従事
- ⑤Friederunから二代にわたって教育を受けた日本人もいる
定年後の現在も継続活躍